

第2次宇和島市総合計画

継承・共育・発信のまち

～ 世代を超えて、自然を愛し、歴史を誇る
ふるさとうわじまの実現を目指して～

後期基本計画

令和5年4月

宇和島市



ごあいさつ

平成17(2005)年8月1日に旧1市3町が合併して誕生した宇和島市は、まちづくりの基本方針となる「総合計画」に則り、各分野において施策を展開しております。

第2次宇和島市総合計画は、平成30(2018)年度から令和9(2027)年度までの10年間を基本構想の計画期間とし、これまでの5年間を基本計画の前期として、シティセールス、農林水産業、商工業者への支援、教育環境の整備などに努めてまいりました。

しかしながら、一方で、海洋ごみなどをはじめとする環境問題、急速化する少子高齢化や人口減少、激甚化、頻発化している自然災害などへの対応なども求められております。

このことを踏まえ、前期基本計画の進捗状況や社会情勢の変化などについて、時代に即した計画とするため、これからの5年間を計画期間とした、「第2次宇和島市総合計画 後期基本計画」を策定いたしました。

後期基本計画では、まちの魅力を高め、市内外の多くの方々から「選ばれるまち」を目指すとともに、引き続き、平成30年7月豪雨災害からの復興にも取り組んでまいります。

また、高度なデジタル社会への対応として、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するとともに、あらゆる分野において、人と人が支え合い助け合う市民協働のまちづくりも目指してまいります。

結びになりましたが、本計画策定に際し、熱心にご審議を賜りました総合計画策定審議会委員の皆様、並びにアンケート、パブリックコメントにご協力いただきました市民の皆様に対し、衷心より深く御礼を申し上げます。

令和5年4月

宇和島市長 岡原 文彰

目次

第1部 総論	… 1
第1章 第2次宇和島市総合計画後期基本計画とは	… 2
1 計画策定の背景と目的	… 2
2 計画の位置づけと構成	… 3
3 計画の期間	… 3
第2章 宇和島市の将来像	… 4
1 目指すべき将来像とまちづくりの姿勢	… 4
2 施策の体系	… 7
3 人口の動向	… 9
第3章 踏まえるべき市民ニーズと新たな時代潮流	… 10
1 市民の意識・意向	… 11
2 新たな時代潮流	… 17
第2部 後期基本計画	… 19
第1章 にぎわい	… 20
1-1 農林業の振興	… 20
1-2 水産業の振興	… 25
1-3 商工業の振興	… 28
1-4 観光の振興	… 31
1-5 雇用対策と勤労者福祉の充実	… 34
1-6 移住・定住の促進	… 36
第2章 思いやり	… 38
2-1 健康づくり・医療体制の充実	… 38
2-2 地域福祉の充実	… 43
2-3 結婚・妊娠・出産、子育て支援の充実	… 46
2-4 高齢者支援の充実	… 49
2-5 障がい者支援の充実	… 52
2-6 社会保障の充実	… 55
第3章 支えあい	… 57
3-1 環境自治体の形成	… 57
3-2 水道の整備	… 60
3-3 下水道の整備	… 63

3-4 廃棄物処理体制の充実	… 65
3-5 墓地・斎場の整備	… 67
3-6 公園の整備と緑化の推進	… 68
3-7 消防・防災体制の充実	… 70
3-8 交通安全・防犯体制の充実	… 74
3-9 消費者対策の充実	… 77
第4章 住みよさ	… 79
4-1 計画的な土地利用の推進	… 79
4-2 市街地の整備	… 81
4-3 景観の形成	… 83
4-4 住宅施策の推進	… 85
4-5 道路・交通網、港湾の整備	… 87
4-6 デジタル化の推進	… 91
第5章 学びあい	… 93
5-1 学校教育の充実	… 93
5-2 生涯学習の充実	… 97
5-3 スポーツの振興	…100
5-4 文化芸術の振興と文化財の保存・整備・活用	…102
5-5 青少年の健全育成	…105
5-6 国際化・地域間交流の推進	…108
第6章 共に歩む	…110
6-1 人権尊重社会の確立	…110
6-2 男女共同参画社会の形成	…112
6-3 コミュニティの育成	…114
6-4 市民協働のまちづくりの推進	…116
6-5 自立した公共経営の推進	…119
第7章 つなぐ	…122
7-1 すまいとくらしの再建	…122
7-2 安全な地域づくり	…124
7-3 産業・経済の復興	…126

第 1 部 総 論

第1章 第2次宇和島市総合計画後期基本計画とは

1 計画策定の背景と目的

(1) 総合計画について

2005年に、旧宇和島市、旧吉田町、旧三間町、旧津島町の4市町の合併によって誕生した宇和島市は、宇和海に面し、豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれ、特色ある農林水産業のまちとして発展してきました。また、宇和島藩伊達家の史跡、広域的な拠点都市としての機能、闘牛などの特色ある観光・交流資源といった地域特性を有しています。

本市では、これらの特性や資源を最大限に生かした“宇和島市らしい”まちづくりを市民とともに進めていくために、また、次代における本市の発展のため、市民の未来を見据えた政策、施策の展開を明らかにし、市民全員の力を結集して計画的にまちづくりを進めていくため平成30年(2018)3月に計画期間を10年間とする「第2次宇和島市総合計画」を策定しました。

「第2次宇和島市総合計画」の基本構想では、目指すべき将来像を「継承・共育・発信のまち～世代を超えて、自然を愛し、歴史を誇る ふるさとうわじまの実現を目指して～」と定め、その実現に向けて、計画期間を平成30(2018)年度から令和4(2022)年度とする前期基本計画を策定し、これまで市民とともにさまざまな取り組みを実施してきました。

(2) 後期基本計画について

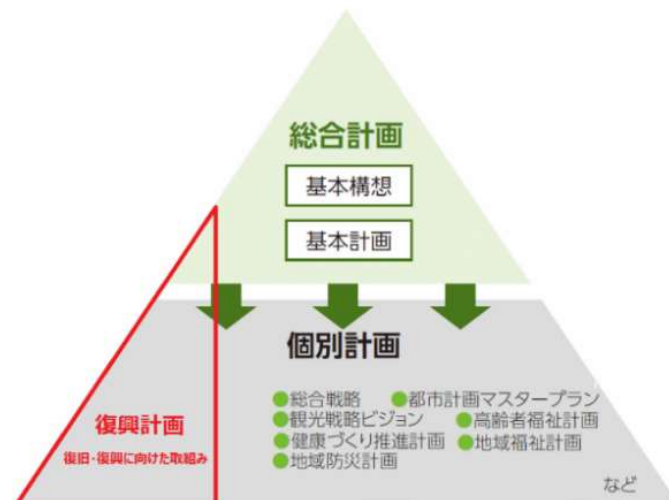
基本構想を実現するための施策の内容を体系的に示す「基本計画」は、令和4(2022)年度末をもって前期計画期間を終えることから、前期基本計画の進捗状況や社会情勢の変化などを踏まえて必要な見直しを行い、後期5年間(令和5(2023)年度～令和9(2027)年度)のまちづくりの指針として、ここに「第2次宇和島市総合計画後期基本計画」を策定するものです。

2 計画の位置づけと構成

総合計画は、まちづくりの基本的方向を総合的かつ体系的に示し、計画的に市政を運営していくための指針となるものであり、市の最上位計画として位置づけます。

「基本構想」は目指すべき将来像と、それを実現するための政策や施策などを示したものの、「基本計画」は基本構想に基づき、今後推進する施策の内容や主要事業などを各分野にわたって体系的に示したもので、各分野の個別計画の基本となるものです。

また、平成30年7月豪雨災害からの復興は、本計画の基本構想に掲げるまちの姿である「継承・共育・発信のまち」の実現でもあり、本市において変わることのない目指すべき将来像です。したがって、平成31年度から令和4年度までの4年間を計画期間として策定した「復興計画」は、本計画の一部を成すものと位置付け、長期的・継続的な視点で取り組むべき課題も多いことから、「後期基本計画」にその内容を引き継ぎ整理します。



3 計画の期間

この第2次宇和島市総合計画後期基本計画の計画期間は、基本構想(平成30(2018)年度～令和9(2027)年度)で定めた目指すべき将来像や政策目標等に基づき、令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間とします。



第2章 宇和島市の将来像

1 目指すべき将来像とまちづくりの姿勢

目指すべき将来像とまちづくりの姿勢は、第2次宇和島市総合計画基本構想に基づき、引き続き次のとおりとします。

(1) 目指すべき将来像

継承・共育・発信のまち

～世代を超えて、自然を愛し、歴史を誇る

ふるさとうわじま実現を目指して～

継承・共育・発信のまち

現在、少子高齢化・人口減少、地方分権の進行、地方産業・経済をめぐる環境の深刻化など、本市を取り巻く情勢は、依然として向かい風となっています。今後ますます厳しさが増大していくことが予想されますが、大空を舞う鳥のように向かい風を飛翔力に変えていくために、今一度、地域資源を見つめ直していく必要があります。

本市は西に広がる宇和海、東にそびえる鬼ヶ城連峰に囲まれ、豊かな自然に恵まれています。そこから生み出されるマダイ、ハマチ、真珠、柑橘は全国有数の生産量を誇り、じゃこ天、宇和島鯛めしなど全国に誇る食文化も魅力の一つです。

また、宇和島伊達10万石の城下町として栄えてきた歴史があり、国指定の宇和島城天守をはじめ、無数の文化財が継承されてきました。さらには、遊子水荷浦の段畑、岩松地区の建造物群といった文化的に重要な景観や、牛鬼、闘牛といった地域に根付いた伝統があります。

この将来像は、先人から「継承」してきた自然・産業・文化など、本市にあふれる魅力を次世代を担う子どもたちと共に育て（「共育」）、希望ある未来を創造していくこと、さらにそれらを市内外問わず積極的に「発信」していくことを表しています。

本市が『帰ってきたいまち』、『住んでみたいまち』として広く認知されることで、子どもたちはもちろんのこと、子どもを支える大人や今後宇和島で暮らす人たちに希望あふれる未来を手渡すことができ、四国西南地域の中心を担う存在として胸を張れるのです。

世代を超えて、自然を愛し、歴史を誇る ふるさとうわじま

「世代を超えて」は、就労世代だけでまちづくり活動を進めるのではなく、これまでの功労者である高齢者世代、そして次世代を担う子どもたちと共に進めていこうという意図を含めています。また、世代を超えて「自然を愛し」、「歴史を誇る」ことで、本市の魅力を再確認し、自然や先人たちに感謝しながら、真の豊かさを追求していく姿勢を示しています。

そして、宇和島の人たちが持つやさしさ、温かさにより、「宇和島の子どもたちが、一度宇和島を離れても、やっぱり帰りたい」、「市外から訪れた人が、宇和島に来てよかった、また来たい」、「宇和島に移住した人が、宇和島に住んでよかった、これからもずっと住み続けたい」と、誰の心にも「ふるさとうわじま」が感じられるまちづくりを目指すことをうたっています。

(2) まちづくりの姿勢

『宇和島ならではの』を追求し、発信します

本市ならではの特性や資源を活用し、豊かな自然や歴史文化、第1次産業を中心とした産業など、魅力的な『宇和島ならではの』を以下の7つの視点を中心に政策目標を掲げて創造・追求し、市民へ、あるいは市民と一体となって、市外へ情報を発信し続けるまちづくりを推進していきます。

にぎわい

豊かな農林水産資源を生かした食の展開や、魅力ある観光資源の情報発信を推進するとともに、雇用の場の創出に努め、宇和島を活性化します

思いやり

四国西南地域の中核病院である市立宇和島病院の医療体制の充実をはじめ、子どもから高齢者まで安心していきいきと暮らせるように、医療・福祉・介護・子育て環境を充実します

支えあい

市民同士のつながりや、市民と行政等の協働により、宇和島の豊かな生活環境を守るとともに、地震や津波などの自然災害に備えた危機管理体制を推進します

住みよさ

四国西南地域の中核都市としての役割を果たすため、近隣自治体との連携を深め、市内外の人が住みたいまちづくりを推進します

学びあい

世代を超えた共育で、次世代を担う「宇和島人」を育成し、伊達文化をはじめとした宇和島の歴史文化を継承し、より発展させていきます

共に歩む

すべての人が尊重され、お互いを思いやり、多様性を重んじる社会の形成を目指して、市民と行政が共に歩むまち「宇和島」をつくっていきます

つなぐ

平成30年7月豪雨災害を踏まえて、「つなぐ」をキーワードとして、「未来咲くふるさとうわじま」を人と人をつなぎあって、ともに創っていくため、3つの施策を柱として復興への歩みを進めます

2 施策の体系

目指すべき将来像及びまちづくりの姿勢を踏まえ、まちづくりの政策目標(分野別政策の柱)を次のとおり定めます。

政策 目 標 1		豊かな資源と 魅力あふれる産業 人でのにぎわううわじま	施策	
			・農林業の振興 ・水産業の振興 ・商工業の振興	・観光の振興 ・雇用対策と勤労者福祉の充実 ・移住・定住の促進
政策 目 標 2		だれもが充実した人生を過ごせる 思いやりのまち うわじま	施策	
			・健康づくり・医療体制の充実 ・地域福祉の充実 ・結婚、妊娠・出産、子育て支援の充実	・高齢者支援の充実 ・障がい者支援の充実 ・社会保障の充実
政策 目 標 3		美しい自然とともに生き 快適さと安全が両立する 支えあううわじま	施策	
			・環境自治体の形成 ・水道の整備 ・下水道の整備 ・廃棄物処理体制の充実 ・墓地・斎場の整備	・公園の整備と緑化の推進 ・消防・防災体制の充実 ・交通安全・防犯体制の充実 ・消費者対策の充実

政策 目標 4	 住みよさ 暮らしやすく集いやすい 便利で安全なまち 住みよいわじま 施策 ・計画的な土地利用の推進 ・市街地の整備 ・景観の形成 ・住宅施策の推進 ・道路・交通網、港湾の整備 ・デジタル化の推進
政策 目標 5	 学びあい すべての人がよく学び 新たな時代を語り合う 学びあうわじま 施策 ・学校教育の充実 ・生涯学習の充実 ・スポーツの振興 ・文化芸術の振興と文化財の保存・整備・活用 ・青少年の健全育成 ・国際化・地域間交流の推進
政策 目標 6	 共に歩む すべての人が尊重され 市民と行政が共に歩む うわじま 施策 ・人権尊重社会の確立 ・男女共同参画社会の形成 ・コミュニティの育成 ・市民協働のまちづくりの推進 ・自立した公共経営の推進
政策 目標 7	 つなぐ ともにつなぎ、ともに創ろう、 未来咲くふるさとうわじま 施策 ・すまいとくらしの再建 ・安全な地域づくり ・産業・経済の復興

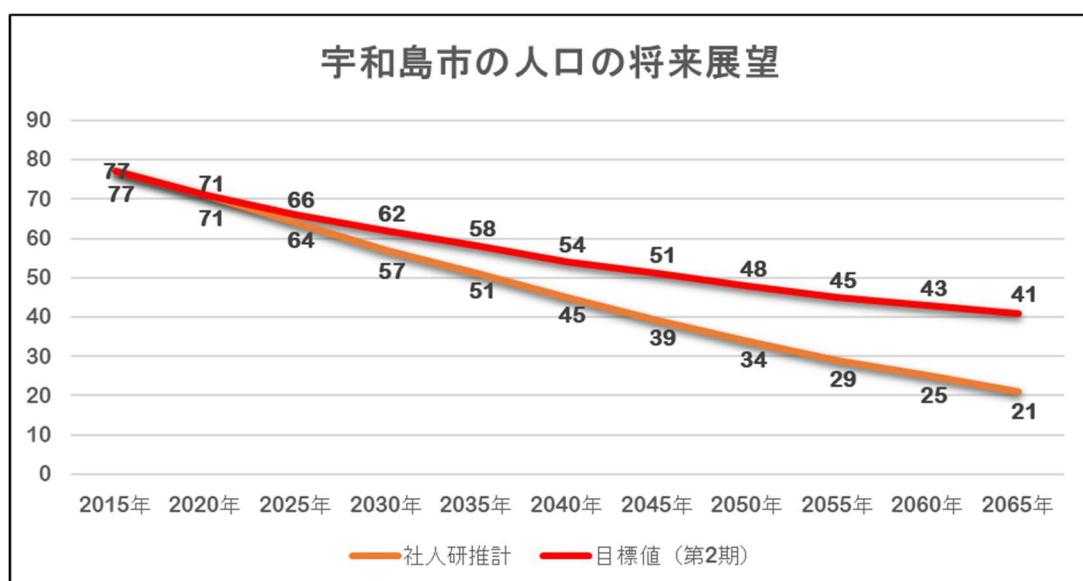
3 人口の動向

2015年の国勢調査で、7.7万人だった本市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後の見通しは、2040年で約4.5万人、2060年で約2.5万人と予測されています。

この現状を踏まえ、本市においては、「宇和島市総合戦略」を平成27(2015)年度に策定し、現在は、第2期の総合戦略事業として、第1期の評価・検証等を踏まえ、必要な見直しを行いつつ、切れ目ない取組を進めています。

① 第2期宇和島市人口ビジョン

「宇和島市総合戦略」では、調査・分析結果や目指すべき将来の方向性を踏まえ、人口の将来展望を以下のとおりとしています。



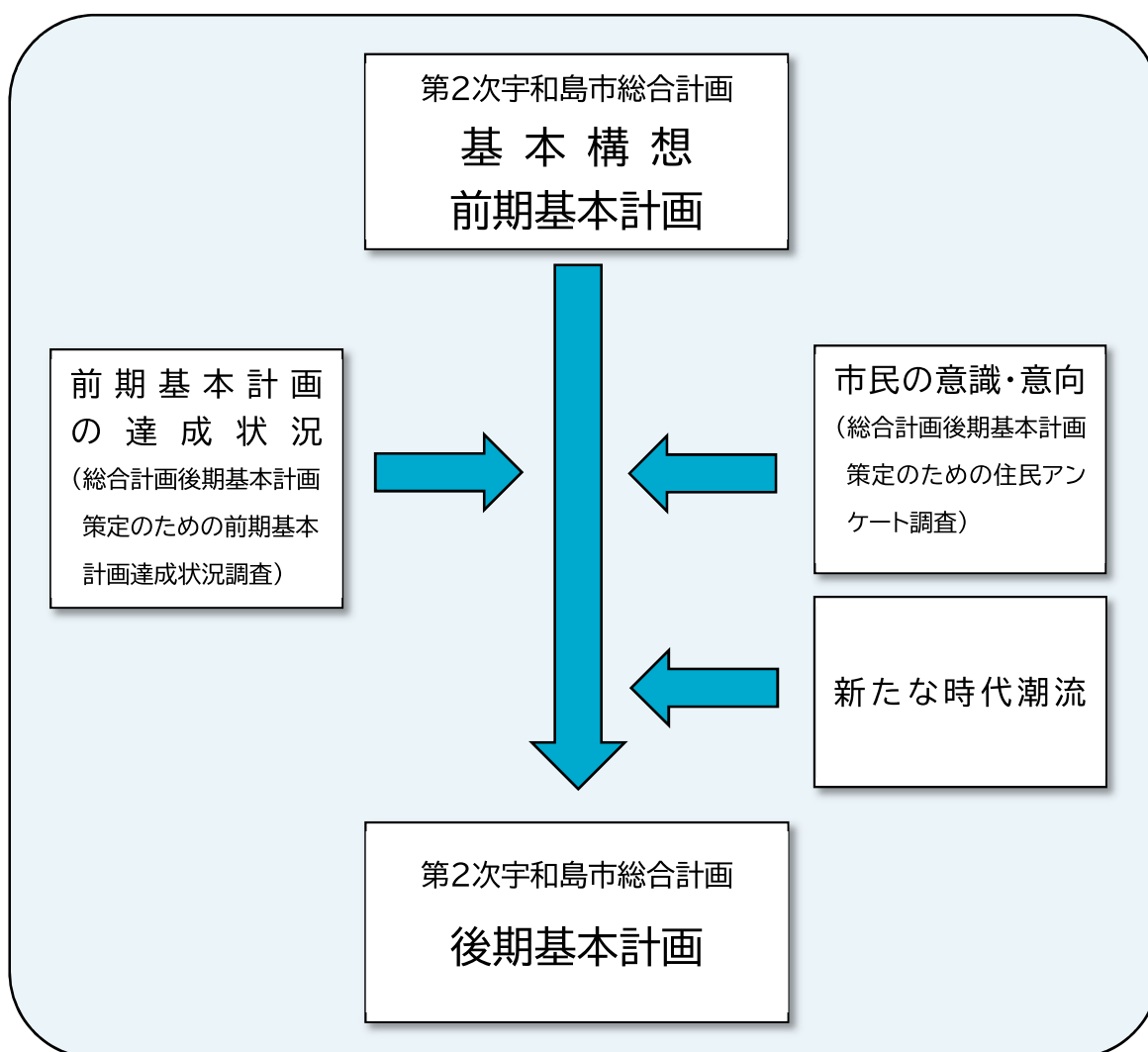
資料：第2期まち・ひと・しごと創生 宇和島市総合戦略

※第2期人口ビジョン：第1期人口ビジョンにおける分析を活かしつつ時点修正を行うとともに、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を提示するもの。

第3章 踏まえるべき市民ニーズと新たな時代潮流

後期基本計画の策定と推進にあたっては、第2次宇和島市総合計画基本構想に基づくこと、前期基本計画の達成状況を踏まえることはいうまでもありませんが、これに加え、直近の市民ニーズの意向と時代潮流を十分に踏まえ、新たな視点で取り入れていくことが必要です。

そこで、本計画において、踏まえるべき市民のニーズと代表的な時代潮流をまとめると、次のとおりです。



1 市民の意識・意向

本計画の策定にあたり、市民の意見を把握するために行ったアンケート調査の結果を示します。

なお、調査内容については、2016年度の第2次宇和島市総合計画策定時に行った項目を中心に市民の意識の動向の推移を調査しています。

(1) 満足度・重要度アンケート調査

この調査は、本市の行政サービスに対する市民の満足度、重要度や市政への意見を把握するために市が独自で実施したものです。ここでは令和4(2022)年度の調査結果から、本市の現状や将来の方向性についての市民の意識や意向を抽出しています。

調査対象： 18歳以上の市民2,700人

(宇和島市住民基本台帳から無作為に抽出)

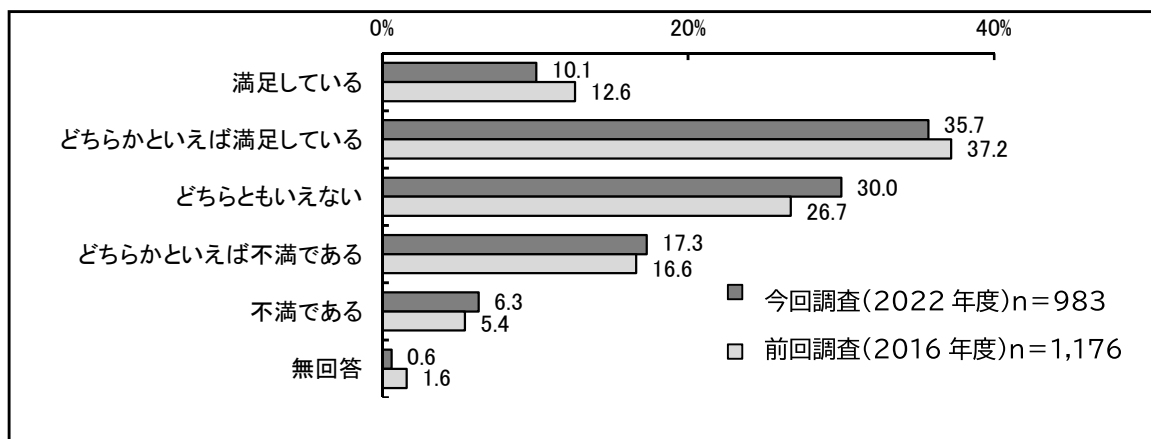
調査方法： 郵送によるアンケートの送付、郵便・インターネットによる回答方式

有効回収数： 983件

① 暮らしやすさ

本市の暮らしやすさについては、「満足している」が10.1%、「どちらかといえば満足している」の35.7%を合わせた“満足している”と回答した人は45.8%で、およそ半数を切る数値となっています。

2016年度の前回調査では、「満足している」が12.6%、「どちらかといえば満足している」の37.2%を合わせた“満足している”は49.8%で、前回より4%減少しています。



② 行政サービスに対する満足度

2022年度のアンケート調査において、本市の行政サービスについての設問全44項目中、満足度の高い3項目及び満足度の低い3項目は、次のとおりとなっています。

【満足度の高い3項目】

順位	項目
1	水道の整備状況
2	自然環境の豊かさ
3	ごみ処理・リサイクル

(参考:前回調査2016年度)

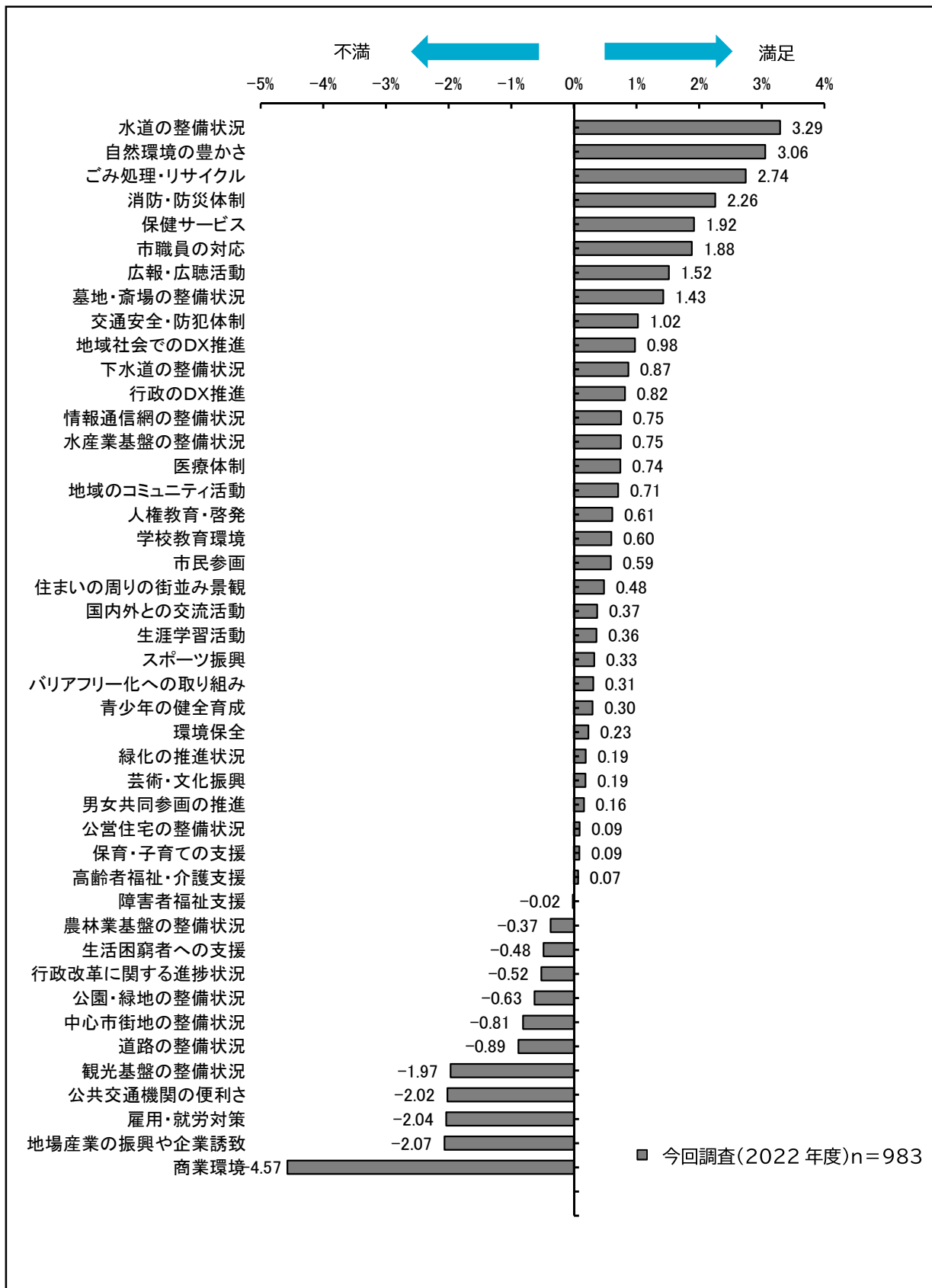
順位	項目
1	水道の整備状況
2	自然環境の豊かさ
3	ごみ処理・リサイクル

【満足度の低い3項目】

順位	項目
1	商業環境
2	地場産業の振興や企業誘致
3	雇用・就労対策

(参考:前回調査2016年度)

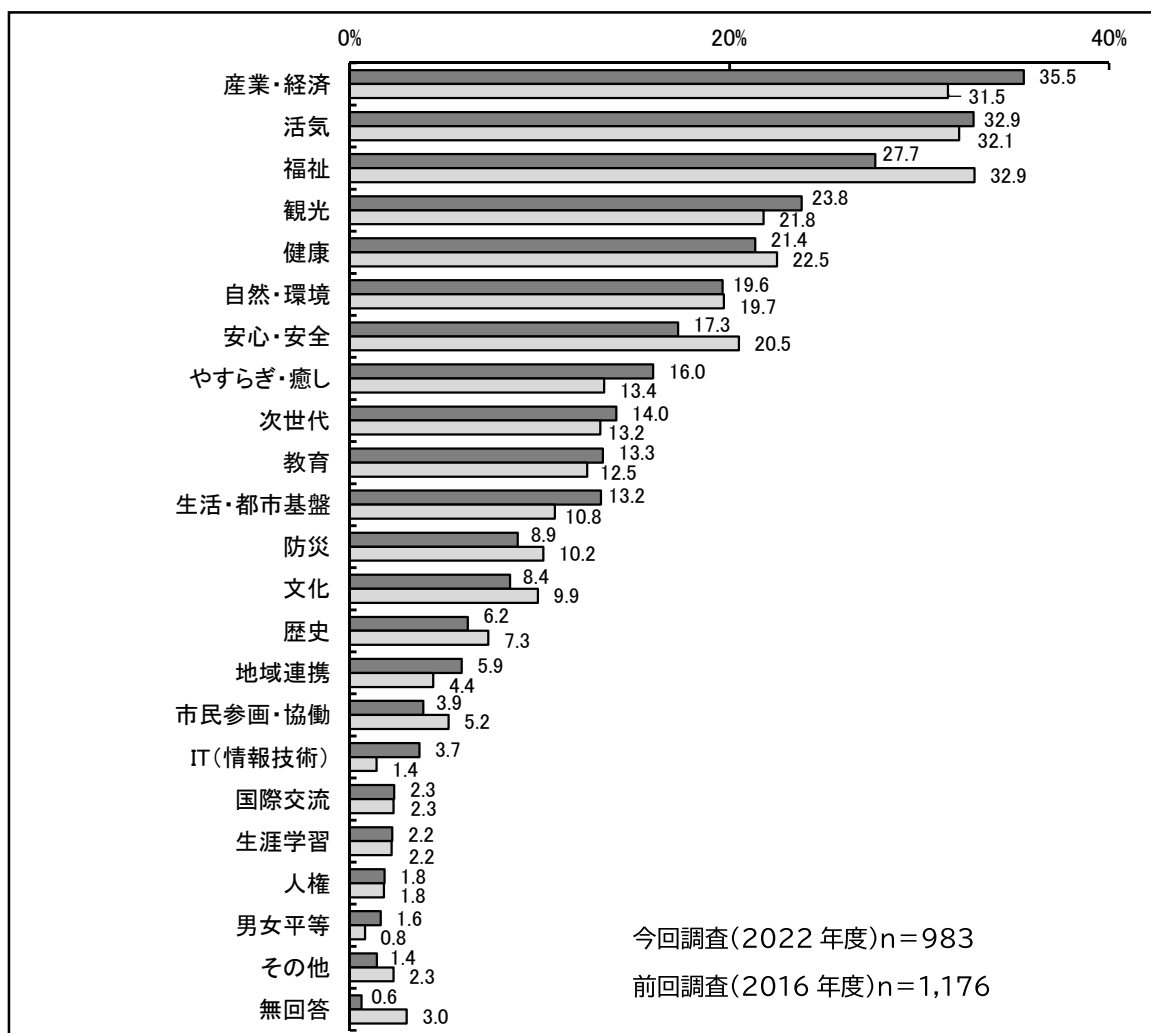
順位	項目
1	商業環境
2	雇用・就労対策
3	地場産業の振興や企業誘致



③ 目指すべきまちづくりの将来像を表すキーワード

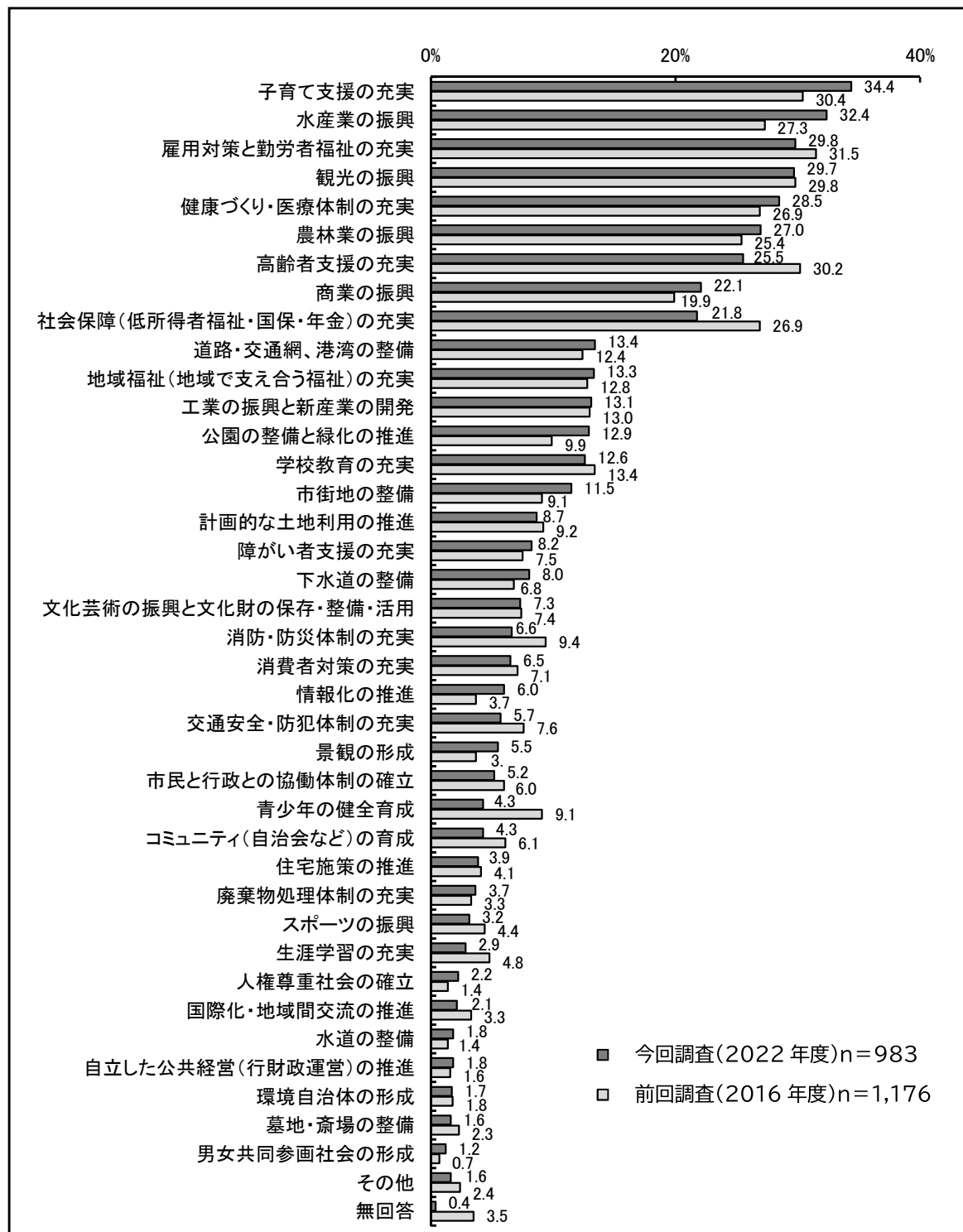
順位	キーワード	%
1	産業・経済	35.5
2	活気	32.9
3	福祉	27.7
4	観光	23.8
5	健康	21.4
6	自然・環境	19.6
7	安心・安全	17.3
8	やすらぎ・癒し	16.0
9	次世代	14.0
10	教育	13.3

将来像のキーワードについては、「産業・経済」が 35.5%で最も多く、「活気」が 32.9%、「福祉」が 27.7%、「観光」が 23.8%と続いています。



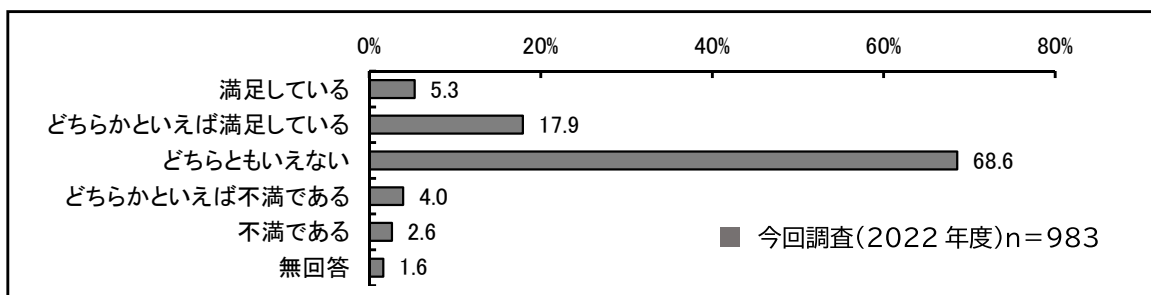
④ これからのまちづくりで特に力を入れるべき施策

「子育て支援の充実」が34.4%で最も多く、次いで、「水産業の振興」が32.4%、「雇用対策と勤労者福祉の充実」が29.8%となっています。



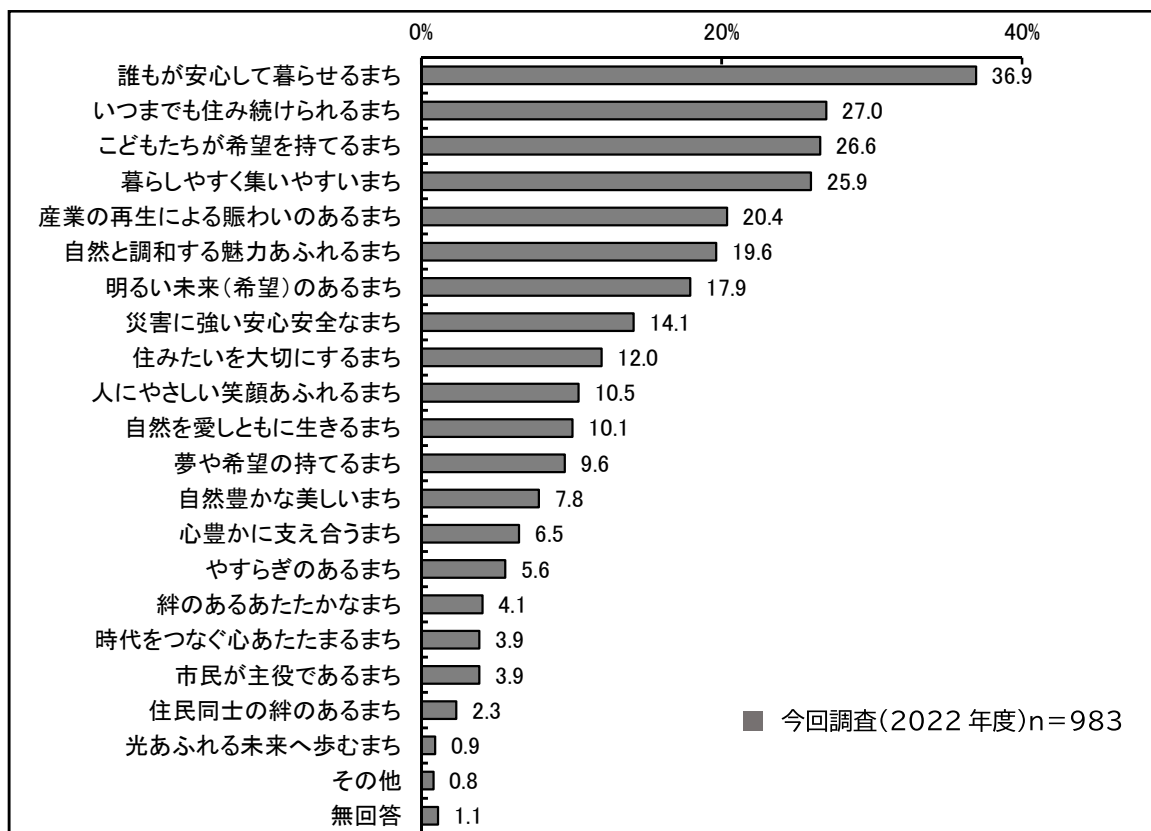
⑤ 新たな施策DX推進

宇和島市の行政におけるDX推進として、マイナンバーカードの普及促進、行政手続きのオンライン化を進めていることへの満足度について、「どちらともいえない」が 68.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば満足」が 17.9%となっており、DX 推進に関する周知が必要となっています。



⑥ 産業・経済の復興

これからの宇和島市の将来を見据えた創造的復興を目指すまちのイメージは、「誰もが安心して暮らせるまち」が 36.9%で最も多く、次いで「いつまでも住み続けられるまち」が 27.0%、こどもたちが希望を持てるまち」が 26.6%となっています。



2 新たな時代潮流

基本構想・前期基本計画策定後およそ5年が経過しましたが、この間、本市を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しています。後期基本計画の策定と推進にあたって、踏まえるべき代表的な時代潮流は、次のとおりです。

(1) 「選ばれるまち」へ

少子高齢化の進行に加え、人口減少も加速しており、「将来に渡るまちの担い手たちをいかに育成していくか」が大きな課題となっています。いま現在、どんなに素晴らしいまちであったとしても、それを引き継ぐ人がいなければ、そのまちは衰退を避けることはできません。

このため、今後のまちづくりにおいては、まちの魅力を高め、この地域の子どもだけでなく、市内外の多くの方々から「選ばれるまち」となることを目指す視点を一層取り入れていくこととします。

(2) 災害等からの再生

前期基本計画策定以降、平成30年7月豪雨災害、さらには、世界中にまん延した新型コロナウイルス感染症の影響が本市にも及び、市民生活や社会経済活動全般において、これまでに経験したことのない事態に直面しました。

このため、今後のまちづくりにおいては、引き続き堅実な財政運営に十分配慮しながら、地域経済の再生も含めた物価高騰・新型コロナウイルス感染症対策や平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興を着実に進めていくことを目指す視点を一層取り入れていくこととします。

(3) DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

少子高齢化の進展により労働力不足が懸念されている中、今後の住民サービスの維持・向上を図る上で、各種行政運営においてもデジタル化の推進が求められています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響は、これまでの私たちの暮らしや仕事を大きく変容させており、これからの時代は、感染症対策と社会経済活動との両立が実現できる社会を構築する必要があります。

このような中、高度なデジタル社会への変革に注目が集まっており、今後のまちづくりにおいては、地域課題の解決や新たな価値の創造を図るため、DXの推進を強化していく視点を取り入れていくこととします。

(4) 市民協働のまちづくりの推進

近年、多くの地域では福祉、産業、環境など、様々な分野で担い手不足が顕著となっており、地域の活力低下や持続可能な活動に対する影響が危惧されています。

これまでも、地域のさまざまな課題に対応するため、本来地域が持っていた、地域自らが解決する機能や支え合い助け合う機能が求められてきましたが、すべての世代の人が協働の担い手として、それぞれの得意分野を生かし、協働をさらに推進できる体制づくりが必要となっています。

このため、今後のまちづくりにおいては、あらゆる分野において、人と人とが支えあい助け合う市民協働のまちづくりと、コミュニティ機能の強化の視点を一層取り入れていくこととします。

(補足) 宇和島市復興計画について

平成 30 年 7 月豪雨災害からの復興は、本計画の基本構想に掲げるまちの姿である「継承・共育・発信のまち」の実現でもあり、本市において変わることのない目指すべき将来像です。

したがって、平成 30 年度から令和 4 年度までの 4 年間を計画期間として策定した「復興計画」は、本計画の一部を成すものと位置付け、長期的・継続的な視点で取り組むべき課題も多いことから、総合計画の後期基本計画にその内容を引き継いで整理します。